

# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』た

## 第十五回 年間最優秀賞決定!

### ★年間最優秀賞(二首)

### ★年間優秀賞(三首)

### ★年間奨励賞(三首)

**チヤグチヤグと馬コが渡る中津川**  
背に乗る吾子に  
初夏の風ふく

岩手県矢巾町 小野寺一洋

**チヤグチヤグと馬コが渡る中津川**  
背に乗る吾子に  
初夏の風ふく

この秋も鮓破れたる  
鮓いくつ  
与の字橋にて魚影に見入る

盛岡市 石川修子

**幼き日**  
祖父と歩きし北上の  
川辺を今日は我が子と歩く

宮城県登米市 佐藤礼佳

**鷺らかき言葉に飢えて**  
盛岡の友の声聞く  
久方振りに

青森県青森市 鈴木操

**幼き日**  
祖父と歩きし北上の  
川辺を今日は我が子と歩く

宮城県登米市 佐藤礼佳

**柔らかき言葉に飢えて**  
盛岡の友の声聞く  
久方振りに

青森県青森市 鈴木操

**【受賞者からのコメント】**  
チヤグチヤグと馬コが開催される日は、昔から晴れの特異日で、盛岡は、初夏の爽やかな風に包まれます。長い道のりを馬コの背に揺られてきた子どもにとって、最高のご褒美です。今回の受賞も最高のご褒美です。  
ありがとうございました。

**【審査員講評】**  
チヤグチヤグと馬コの日は晴れの日で、盛岡は、初夏の爽やかな風に包まれます。長い道のりを馬コの背に揺られてきた子どもにとって、最高のご褒美です。今回の受賞も最高のご褒美です。  
ありがとうございました。

**【受賞者からのコメント】**  
（山本玲子）チヤグチヤグと馬コの日は晴れの日で、馬コに揺られて、中津川を渡る長い道のりを、ついウトウトしてしまう。そんな吾子の頬を初夏の風が優しく撫でてゆく。

**（松田）**装束をついた「馬コ」が中津川を渡る場面から、馬の背に揺られる「吾子」に視点を移すという展開が見事です。吾子の風に吹かれて、かの子が分かりませんが、「初夏の風」に吹かれて気持ち良さそうですね。

**【受賞者からのコメント】**  
（山本玲子）チヤグチヤグと馬コの日は晴れの日で、馬の背に揺られる「吾子」に視点を移すといいう展開が見事です。吾子の風に吹かれて気持ち良さそうですね。

**（山本玲子）**この子は私が祖父に手を引かれています。

**【受賞者からのコメント】**  
（山本玲子）この子は私が祖父に手を引かれています。

危機すら切り抜け、こうして生まれ故郷に戻ってきたのだから。(松田) 河口から二百キロという気の遠くないうな距離をひたすら週上する鮚。放流された盛岡の川に辿り着く頃には鮚の破れた魚体も珍しくありません。与の字橋からその姿に「見入る」人々の思いは限りなく優しいのです。

(山本豊) 毎年秋になると、太平洋から二百キロも週上して中津川にたどり着き命を繋ぎ直す契機になりました。また、どこで切ってひと呼吸入れるかで歌の感じも変わるようなりがとうございました。

**【受賞者からのコメント】**  
（山本玲子）鮚の破れはむろん見えないしてしまいます。鮚の破れはむろん見えないしてしまいます。鮚の破れはむろん見えないしてしまいます。故なら大海原を渡り、時には生命の息を失って死んでしまう。生き残った鮚の懸命な姿が見られます。感情を抑えた表現により印象が鮮やかに捉えられていました。産卵後の鮚の行く末も暗示させる内容です。

(赤澤) 盛岡の中津川は、市街地を流れていますが、鮚が上る川として知られています。鮚が上る川として、観察が行き届いており、「与の字橋」の具体的な歌を確かなものにしてあります。丁寧に詠まれている作品です。

遠い想い出があることなど想像もつかないに違いない。しかし、いつの日か我が家が子も親となり北上の川の流れを見つめる日が来るだろう。きっとそのときに初めて祖父の気持ちがわかるに違いない。

(松田) 「祖父」のお住まいが盛岡で、作者は幼い頃よく遊びに来られたのでしよう。手を繩びき岸辺を散歩するの常だったのでしょうか。手を浮かべて迎えてくれる。迎える人、迎えただいま」とつぶやいた。

**改札ではじける笑顔**  
**風鈴がおかえりなさい**と  
輪唱している

宮城県仙台市 郷家美磨

**【受賞者からのコメント】**  
昨夏、久しぶりの盛岡駅。改札へ向かうと涼やかな音色。ああ、どこかで南部鉄の風鈴たちが並んで揺れている。人々は再会の喜びで笑っている。父も夫も妻も転勤族だったので私は明確な故郷がないけれどあの瞬間、温かなものに抱かれたような心地になり、便乗してそつと

まですが、鮚が上る川として知られています。鮚が上る川として、観察が行き届いており、「与の字橋」の具体的な歌を確かなものにしてあります。丁寧に詠まれている作品です。

南北鉄の風鈴の音となつて奏でている。「改札ではじける笑顔」には、出迎えた表現したことにより成功しています。改札ではじける笑顔には、出迎えた表現したことにより成功しています。改札ではじける笑顔には、出迎えた表現したことにより成功しています。

（赤澤）この歌は発想が独特です。風鈴を擬人化しています。擬人化は短歌の技術としては難しいものです。改札と風鈴が一緒に鳴る音を逃さず、上手く配置されています。短歌の巧拙は、言葉の配置と言つても良いのです。

(赤澤) この歌は発想が独特です。風鈴を擬人化しています。擬人化は短歌の技術としては難しいものです。改札と風鈴が一緒に鳴る音を逃さず、上手く配置されています。短歌の巧拙は、言葉の配置と言つても良いのです。

（松田）作者がふだん耳にしない「柔らかき」という感じではないのかもしません。「飢えて」の一言にインパクトがあります。おつとりとした盛岡訛りが恋しくなった時に電話できる友人のこと

(赤澤) もう私の父高と泳いで北上川を流れたそうです。晩年は私と手を繋ぎ、よく北上川を散步しました。苦労して育ててくれたその手のぬくもりは生涯忘れません。素のところが成功です。とても心惹かれる歌です。

(赤澤) 作者は、幼い日北上川の川辺を祖父と一緒に歩いたことを覚えています。その記憶の刷り込みが、お子さんと再び歩かせたのです。これが小さなかつとも知れませんが、おめはん、最近、なんたになつてた

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。

四つの期間(夏の部・秋の部・冬の部・春の部)に分けて募集し、一年間に心穏のあった四〇首(一般部門)の中から第十一回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

また、ジニア部門において、秋の部では「盛岡市立飯岡中学校」「岩手県立盛岡青松支援学校」より多くのご投稿をいただきました。書面を通じてお礼申し上げます。



# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』<sup>うた</sup> 第十三回年間最優秀賞決定!

## 年間最優秀賞(二首)

群舞するさんさの夏が  
恋しくて想ひを馳せる  
盛岡の街

盛岡市 河野 康夫

【受賞者からのコメント】

盛岡の夏の風物詩である、さんさ踊りが新型コロナウイルスの影響で中止になった。いつもの盛岡の夏に戻ってほしい。

何度も応募ましたが、この度は年間最優秀賞に選んで頂きありがとうございました。

【審査員講評】

(松田)「群舞するさんさ」は藩政時代から伝わる盆踊り「さんさ踊り」のこと。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、この夏も終息は難しいと思われます。そんな現状なればこそ、「さんさ踊り」が「恋しくて想ひを馳せ」てしまう作者の心中もよくわかりますし、大手の市民の「想ひ」でもあります。

(山本豊) 作者の想いが素直に表現されています。読み手にストレートに伝わってくる歌です。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、さんさ踊りが中止になってしまったことに対する作者の無念さも感じられます。

(赤澤)さんさ踊りは、数十年の歴史を重ね、盛岡の夏の行事として定着しました。作者はさんさ踊りのない夏を寂しみ、歌に詠んだのでしよう。「想ひを馳せる」に作者的心情が籠っており、素直に気持ちを表現した良い歌です。

(山本玲子)「踊は田舎」年中の最大快樂である」と啄木は述べる。一糸乱れぬばちさばき。皆さん太鼓がこだまする。その最大の快樂を今年もまたコロナに奪われた。故に一層、故郷を恋しく思われるのです。

## 年間優秀賞(三首)

不來方の城から  
見ゆる岩手山  
残雪線が点になりゆく

盛岡市 鈴木 充

【受賞者からのコメント】

受賞作を読み返してみると「残雪線が点になりゆく」が「残雪線」と誤解される可能性があります。そもそも残雪が線や点である訳がない。残雪は面で次第に面積が減つてゆくのが自然。甘く見てもえた事に感謝です。

【審査員講評】

(松田)岩手山に降り積もった雪が、春になりけて徐々に消えてゆく過程を興味深く捉えています。「残雪線」という新鮮で驚嘆に値する表現に思わず頷きました。二

故郷を離れこの地に学ぶ子を  
抱き守れよ  
もりおかの空

愛知県一宮市 五十嵐 理子

【受賞者からのコメント】

は、きっと澄みきっていたことでしょう。「山本豊」勉学のために、故郷を離れて盛岡で暮らすことになった子を思う親の祈るような気持が伝わって来ます。祈る対象が跡形もなく消し去る盛岡の春が浮かび上がつたに違いない。

「ウイルスを運ばぬよう」  
俯きて着任の春に  
清き山あり

盛岡市 郷家 美磨

【受賞者からのコメント】

(山本豊)県外から盛岡に異動して来た方でしょうか。新型コロナウイルスの感染者の少ない盛岡に来た作者の遠慮がちな様子が伝わってきます。その作者を救つてくれているのが「清き山」である。これがこの歌に深みを与えています。

(赤澤)作者のお子さんは盛岡で学んでいるので盛岡にいるお子さんをいつた盛岡は、思った以上に遠く寒く、どうかは、小さくまとまってしまう場合が多いのですが、下の句を大きな景でまとめているところに魅力を感じます。

(山本玲子)「まだ頑張れる」と力強く励ます言葉です。この街が好きです。

## 年間奨励賞(三首)

綿雪の開運橋に点る灯に  
御伽幌馬車  
渡り観るよな

釜石市 中嶋 多喜子

【受賞者からのコメント】

高校十六才の時和歌にふれそれからこの歳まで褪せることなく愛し積んだが今

だ道草のまま。いいんですこのままで。四季折々に発刊する「さちぐさ」日々の生活に我が思いを載せ静かに胸に畳み終生の愛とします。

【審査員講評】

(松田)綿雪の降る開運橋を、御伽話さながらに幌馬車が渡つてゆく。そんな光景をふと錯覚してしまいそうな一齣

果して夢が現か。

(山本豊)冬の開運橋の情景がメルヘンの世界を思わせてくれる歌です。開運橋をこのように説いた歌はこれまでになかつたと思います。雪が単なる雪ではなく、「綿雪」であることが、この歌の抒情性を深めています。

(赤澤)この歌はその発想が豊かだと思います。それが個性になっています。開運橋と火打と鉄の橋に「御伽幌馬車」を感じたところは卓抜だと思います。結句の渡り観るよなは、やや不安定かも知れません。また挑戦してください。

(山本玲子)ライトアップされた冬の開運橋はメルヘンチックだ。「シンデレラ

は最終電車に乗り遅まないと急ぎ足で岡駅に向かつたのかもしれない。と急ぎ足で岡駅に向かつたのかもしれない。と空想だけでなく、作者は幌馬車のわだかを確かに感じたのだろう。

(赤澤)新型コロナウイルスは、数多く詠まれている素材ですが、作者独自の捉え方が求められます。新任地となつた盛岡への気遣いを歌にした感覚が素材で良いと思います。結句の山を具体名で書いてみる方法もあると思います。

(山本玲子)時節柄、都会から赴任で土地の人を不安にさせまいとする心優しき作者。赴任の朝はうつむき加減だったに違いない。しかし盛岡駅の直前、目に飛び込む清き岩手山。恐らく私は作者以上に安堵してしまった。

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。

四つの期間(夏の部・秋の部・冬の部・春の部)に分けて募集し、一年間に心慕のあった

三〇四首(一般部門)の中から第十三回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

今回も多くのご投稿をいただきありがとうございました。書面を通じてお礼申し上げます。

# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』<sup>うた</sup> 第十四回 年間最優秀賞決定！

## 年間最優秀賞（二首）

擬宝珠下  
染物流し藍搖れて  
職人巧古都守りたり

盛岡市 三澤 信裕

雪形の驚がくつきり浮き上がり  
今日は畑に  
石灰を撒く

盛岡市 中島 久光

初めてのさんさ踊りに  
めうよされ  
夢中で手拍子二歳の娘

岐阜県可児市 有田 峻

はつて  
初めてのさんさ踊りに  
めうよされ  
夢中で手拍子二歳の娘

盛岡市 有田 峻

岐阜県可児市 有田 峻

## 年間優秀賞（三首）

雪形の驚がくつきり浮き上がり  
今日は畑に  
石灰を撒く

盛岡市 中島 久光

初めてのさんさ踊りに  
めうよされ  
夢中で手拍子二歳の娘

岐阜県可児市 有田 峻

岐阜県可児市 有田 峻

## 年間奨励賞（三首）

初めてのさんさ踊りに  
めうよされ  
夢中で手拍子二歳の娘

岐阜県可児市 有田 峻

岐阜県可児市 有田 峻

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。三四一首（一般部門）の中から第十四回目となる年間優秀作品が決定いたしました。今回も多くのご投稿をいただきありがとうございました。誌面を通じてお礼申し上げます。

【受賞者からのコメント】  
過分な思いがけない通知を頂き驚きと恐縮の至りです。上の橋下、木綿の藍染流しは古都盛岡の情緒と堅実な土地柄を彷彿させ心に染みる。いつまでも情緒ある風情と堅実性、伝統技を失わない盛岡であつて欲しい。

【受賞者からのコメント】  
過分な思いがけない通知を頂き驚きと恐縮の至りです。上の橋下、木綿の藍染流しは古都盛岡の情緒と堅実な土地柄を彷彿させ心に染みる。いつまでも情緒ある風情と堅実性、伝統技を失わない盛岡であつて欲しい。

【受賞者からのコメント】  
（松田）上ノ橋界隈の染物流しの光景を、丁寧に見て詫われています。声に出してみるとボキボキ折れる感じがしませんか。助詞を補つて滑らかな表現にするといいでしよう。

【受賞者からのコメント】  
（山本豊）盛岡の歴史の一画を情景豊かに表現しています。擬宝珠は、中津川に掛なづあります。とても風情を感じさせてくれます。

【受賞者からのコメント】  
（赤澤）技術は昔の方法を変えて、時代とともに変化してゆく。それを進歩と言うのはやむを得ないだろう。その中で昔ながらの方法を守り続いている人がいる。それが、この歌の主題である。「藍揺れて」に作者の心を見える。

【受賞者からのコメント】  
（山本玲子）「ふるさとの歌に向かいて言うことなし」と言いたい。初夏の寒石川の水音、風のささやき、向こうに見える岩手山が時を越えて眼前に迫つてくる。私はこの歌が好きだ。なぜならこの歌は間違いない古都盛岡を言い表しているから。

【受賞者からのコメント】  
（松田）盛岡に暮らす人の多くは日々見慣れた山ですが、「強く生きよ」と気持ちを語らない時もある。あるいは時間が解決してくることだつてあるかも知れない。それから、楽しく元気に暮らして参りました。

【受賞者からのコメント】  
（松田）岩手山が力強く背中を押してくれるのだ。

【受賞者からのコメント】  
（赤澤）二歳の女の子の、あどけなく樂しそうな手拍子と表情が見えるようです。

【受賞者からのコメント】  
（赤澤）作者の生きて来た背景は判らないが、岩手山に励まされて来た。人間の未来は判らない。力を尽くしても、上手く行かないことがある。そんな時、作者は岩手山を見つめる。答えは教えてくれないが、励ましてくれるのだろう。

【受賞者からのコメント】  
（山本玲子）人生にはいくつもの乗り越え

るべき壁があつたり、受け入れなければならぬ時もある。あるいは時間が解決してくることだつてあるかも知れない。それから、楽しく元気に暮らして参りました。

【受賞者からのコメント】  
（山本玲子）人生にはいくつもの乗り越え

【受賞者からのコメント】  
（赤澤）この短歌にも岩手山が出て来る。岩手山は郷愁を誘うのであろうか。図書室の窓から美しい山を見たのだ。作者は岩手山の心が最も知れない。旅立ちは人の心に波紋を起す。上の句を下の句

【受賞者からのコメント】  
（赤澤）この短歌にも岩手山が出て来る。岩手山は郷愁を誘うのであろうか。図書室の窓から美しい山を見たのだ。作者は岩手山の心が最も知れない。旅立ちは人の心に波紋を起す。上の句を下の句

【受賞者からのコメント】  
（山本玲子）学生時代が鮮やかによみが

えつてくる。そして慣れ親しんだ岩手山

【受賞者からのコメント】  
（山本玲子）学生時代が鮮やかによみが

# 啄木のふるさと『もりおかの短歌』 第十五回年間最優秀賞決定!

## 年間最優秀賞(二首)

この街は何か良い事有りきこうな  
開運橋とふ  
橋を渡りぬ

盛岡市 佐藤 忠行

啄木の新婚の家君と吾の  
靴をびたりと  
寄せて揃へき

奥州市 遠藤 カオル

【受賞者からのコメント】

ゆつたりと流れる母なる大河北上川の清流  
手入れの行き届いた土手岸の花壇の四季の  
花々、流れの先に父親の如く悠然と聳える岩  
手山、盛岡の表玄関ともいえる開運橋からの  
眺望は渡る人々、安らぎと幸せ、希望を与  
えてくれ、盛岡のパワースポットです。

【受賞者からのコメント】

若き日に君と「啄木新婚の家」を訪れた  
際、玄関で二人の靴をびたりと寄せて揃え  
たときのことを短歌に詠みました。あのとき  
の勇気、嬉しさと恥ずかしさ、一途な思  
いが蘇り、幸せな気持ちになります。また  
訪ねたいですね。

の事実のみを述べたことにより、感情の甘  
さを押さえている。  
（赤澤）啄木の新婚の家を素材に上手く詠  
んでいる。夫婦で訪ねたのである。靴を  
素材にした着眼が良い。「びたり」と効い  
ている。短歌の詩形を活かし巧みに詠んで  
いる。作者の感性的鋭さに驚き、気持ちの  
優しさに心惹かれた。

【受賞者からのコメント】

友人と城跡を散策していたときに、つ  
れづれと音がするので、何の音かなど辺  
りを見回すと、扇形の銀杏の黄葉が次々  
と散り、その柄が歌碑に触れるときの音  
のこもった歌です。

（吉田）作者は石川啄木と節子との短い新  
婚生活を知っていたのでしょうか。自分と夫  
の靴を「びたりと」寄せて揃え、二人の生  
涯に思いを馳せ、自分たちの夫婦生活の平  
穏を祈つたのでしょうか。初々しくも情感  
のこもった歌です。

（吉田）岩手公園の「不來方の一」の啄木  
歌碑のことでしょう。作者は城跡を訪れ  
て、歌碑の前に佇んでいます。銀杏の葉が散  
つても季節が巡つてゆく。これからも  
空に吸われし十五の心」だろう。歌碑  
とともに季節が巡つてゆく。これからも  
世代を超えて歌碑は力強く訴えるに違い  
ない。啄木季節の音とともに自然の營  
みの中で楽しんでいるに違いない。

（吉田）岩手公園の「不來方の一」の啄木

## 年間優秀賞(三首)

ふるさとの  
鬼の手形を取り聞み  
眺める子らは瞳をこらす

盛岡市 赤坂 昌信

雪積る枝に  
小さき蕾もつ  
石割桜よ春にまた見ん

千葉県浦安市 岩田 一

【受賞者からのコメント】  
三ツ石神社の鬼の手形の岩の周りに集ま  
り手形が何処にある子供達の表情を  
詠みました。岩手の語源になったものと思  
われる説明を聞き興味津々の子供達が可愛い  
選んでいただきありがとうございました。

（吉田）開運橋という名の橋は盛岡を合  
わせて北海道・東北を中心になつてあるそうだ。  
何か良いことがあってほしいという北国の  
人々の願いが込められている。盛岡駅を出  
て開運橋を渡った旅人の期待が古の人々の思  
いと重なる。

（吉田）盛岡駅に降り立ち正面の道路をまつ  
すぐ進むと大きな橋があります。その橋の名  
は開運橋。旅人でもそこに住む者でも開運  
橋を渡る時の楽しい気分、ほのかな期待をり  
ズムよく表しました。愛唱歌になる歌ですね。

【審査員講評】  
（山本豊）盛岡市の三ツ石神社には、鬼の  
手形を押したという伝説のある三つの大き  
な岩がある。岩を取り囲み手形を見つけよ  
うと瞳をこらす子供達の情景には、ほほほ

（吉田）開運橋を詠んでいる。名前の由来は  
解からないが、作者は良い名前だと思ったの  
だろう。渡れば何か良いことがある気がした  
誰か。開運橋は二度泣き橋の別名を持つ。こ  
えてくれる。その橋を渡りながら、遠くに見  
える岩手山や橋の下を流れる北上川は心を和  
ませる。

（赤澤）開運橋を詠んでいる。名前の由来は  
解からないが、作者は良い名前だと思ったの  
だろう。渡れば何か良いことがある気がした  
誰か。開運橋は二度泣き橋の別名を持つ。こ  
れて素材にしても作れそうだ。新たに挑戦し  
てほしい。

（吉田）開運橋という名の橋は盛岡を合  
わせて北海道・東北を中心になつてあるそうだ。  
何か良いことがあってほしいという北国の  
人々の願いが込められている。盛岡駅を出  
て開運橋を渡った旅人の期待が古の人々の思  
いと重なる。

（吉田）盛岡駅に降り立ち正面の道路をまつ  
すぐ進むと大きな橋があります。その橋の名  
は開運橋。旅人でもそこに住む者でも開運  
橋を渡る時の楽しい気分、ほのかな期待をり  
ズムよく表しました。愛唱歌になる歌ですね。

## 年間奨励賞(三首)

城跡に銀杏の黄葉  
散りしき歌碑に触りて  
軽く音立

奥州市 遠藤 カオル

の事実のみを述べたことにより、感情の甘  
さを押さえている。  
（赤澤）啄木の新婚の家を素材に上手く詠  
んでいる。夫婦で訪ねたのである。靴を  
素材にした着眼が良い。「びたり」と効い  
ている。短歌の詩形を活かし巧みに詠んで  
いる。作者の感性的鋭さに驚き、気持ちの  
優しさに心惹かれた。

【受賞者からのコメント】

友人と城跡を散策していたときに、つ  
れづれと音がするので、何の音かなど辺  
りを見回すと、扇形の銀杏の黄葉が次々  
と散り、その柄が歌碑に触れるときの音  
のこもった歌です。

（吉田）作者は石川啄木と節子との短い新  
婚生活を知っていたのでしょうか。自分と夫  
の靴を「びたりと」寄せて揃え、二人の生  
涯に思いを馳せ、自分たちの夫婦生活の平  
穏を祈つたのでしょうか。初々しくも情感  
のこもった歌です。

（吉田）岩手公園の「不來方の一」の啄木  
歌碑のことでしょう。作者は城跡を訪れ  
て、歌碑の前に佇んでいます。銀杏の葉が散  
つても季節が巡つてゆく。これからも  
空に吸われし十五の心」だろう。歌碑  
とともに季節が巡つてゆく。これからも  
世代を超えて歌碑は力強く訴えるに違い  
ない。啄木季節の音とともに自然の營  
みの中で楽しんでいるに違いない。

（吉田）岩手公園の「不來方の一」の啄木

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による、啄木短歌の特徴である「三行書き」の短歌づくりを通じて「短歌のまち もりおか」を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。  
四つの期間（夏の部・秋の部・冬の部・春の部）に分けて募集し、一年間に心慕のあった  
三七二首（一般部門）の中から第十五回目となる年間優秀作品が決定いたしました。  
今回も多くのご投稿をいただきありがとうございました。誌面を通じてお礼申し上げます。